

国語問題（六〇分）（この問題冊子は八ページである。）

受験についての注意

- 一、監督の指示があるまで、問題を開いてはならない。
- 二、携帯電話・PHSの電源は切ること。
- 三、時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
- 四、試験開始前に、監督から指示があつたら、解答用紙の受験番号欄の番号が自分の受験番号かどうかを確認し、氏名を記入すること。
- 五、解答用紙は三枚ある。解答は解答欄に記入し、その他の部分に何も書いてはならない。
- 六、監督から試験開始の合図があつたら、この問題の冊子が、上に記したページ数通りそろっているかどうかを確かめること。
- 七、筆記具は、H、F、HBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆やボールペンなどを使用してはならない。訂正する場合は、消しゴムで丁寧に消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破つたりしてはならない。
- 九、試験時間中に退場してはならない。
- 十、問題冊子と解答用紙を持ち帰ってはならない。

以上

以下の文章を読み、設問に答えなさい。

現在、大学の入試制度改革が進められています。文部科学省のホームページで見ると、「高大接続改革」という言葉が出でてきます。高等学校教育の改革を行うためには、大学の入試制度を変える必要がある、だから高校から大学進学の節目に行われる大学入試のあり方を変えよう、というものであります。四年制大学・短期大学への進学率は一九六六年以降に急上昇し、その後一時伸び悩んだものの一九八六年以降もゆるやかに上昇する傾向にあります（注1）。グローバル化が進展する現在、国際社会で活躍できる人材育成のために、これまで重視されてきた知識・技能の習得だけでなく、思考力・判断力・表現力に加え、主体的に他の人々と協働して学ぶ力が求められるようになつたのです。大学・短期大学への進学率は六十パーセント近いこと、そして大学入試に向けた学びが高校で重視されがちなどから、大学入試制度を変えれば学びの内容も変わる、と考えたのでしょう。

従来の大学入学試験は、（1）知識偏重と言われてきました。国公立大学共通第一次学力試験（現在の大学入試センター試験の前身）が始まつたのは一九七九年のことです、大勢の受験生に対応するためマークシート式の試験となりました。選択肢の中から選ぶだけの試験は、知識偏重に（ア）はくしやをかけました。この試験とは別に小論文や面接を課す大学も多くありましたが、マークシート式試験の比重は大きなものでした。

ところが、文部科学省のホームページにある「大学入学者選抜改革について」（注2）を見ると、知識・技能の評価ももちろん大切ですが、思考力・判断力・表現力を中心に評価をする、という文言があります。そして国語だけでなく数学でも記述式の解答を求めるとしています。数学においても、ただ答えを出すだけではなく、どのような方法で答えを導くのか説明する必要がでてきたのです。英語についても、従来のReadingやListeningだけでなく、SpeakingとWritingの四技能で評価することになりました。

こうした改革が求められる背景には、国際社会で異なる国々や文化の人々と協働する場面が今後増えるであろうという予測があります。相手に対し、自分の意見を論理的に話したり書いたりできなければ、コミュニケーションが成立しません。政治問題にからんで「（2）忖度」という言葉が

流行りましたが、国際社会では「忖度」は通じません。もちろん社会人として働いたり、さまざまな地域の社会活動に参加したりしていれば、論理的な思考力や表現力はあるていど身につくはずです。しかし、よりはやく大きな効果を上げようとするなら、そうした力を養う機会を一律に学校教育のなかに導入することが求められるのです。

では、思考力・判断力・表現力を養う上で必要なことは何でしょうか。学校だけでなく、日常生活でも「彼らの能力を皆さんには無意識のうちに使って生活しています。しかし、論理的に自分の主張をまとめ、相手にわかつてもらえるように表現するのは、意外と難しいものです。たとえば家族や親しい友人たちと「今日何を食べる?」「今度の日曜日にどこに行こうか」といったことを決めるのなら簡単ですが、「文化祭でこのクラスは何をやるのか」といったことだと難易度が少し上がります。さらに利害が対立する人々がいるような複雑な社会問題を議論するときには、議論の進展にあわせて頭のなかにある知識を根拠として使いながら、賛成や反対の意見をその場にふさわしい言葉遣いやマナーで述べる必要があるので、さらに大変です。これができるようになるためには、根拠をあげて論理的に意見を展開している（イ）もはん的な文章に慣れ親しむ経験が欠かせません。この時、よく言われるのが読書の重要性なのです。読書については昔から議論が繰り返されてきました。特に若い世代の読書離れがよく問題となっています。最近の読書をめぐる議論を見てみましょう。

二〇一七年三月八日付の朝日新聞に、ある大学生からの投稿が（3）掲載されました。見出しには「読書はしないといけないの？」とあり、内容は読書を不可欠と考える風潮に対し疑問を（ウ）でいするものでした。もちろん読書の有用性を完全に否定するものではなく、役に立つこともあるだろうと認めていますが、読書は楽器（エ）えんそうやスポーツのように趣味の一種なのに、なぜ読まないと問題視されるのかを教えてほしい、と述べています。

これを読んで意見をまとめ、レポートするよう教員から言われた大学生たちの間で議論が始まりました。

学生A：私はこの投稿者の気持ちがわかる。だつて大学の課題や試験準備で忙しいし、アルバイトもしないといけない。①単刀直入に言うけど、わざわざ読書するメリットは何？

学生B：私はミステリーや泣ける小説を読むのが好きだし、読書からいろいろ学べることも多いと思うけれど、すべての人に読書が必要かといわれると困っちゃうな。②優柔不断でごめん。

学生C：うーん、でも文部科学省の大学入試改革を見ると、入試対策上、読書が重要になると思う。自分で考えたことをきちんと書くためのお手本になるし、ボキャブラリーも増えるし、自分と違う意見の人の考え方やその理由なんかもわかる。ただ、小学校や中学校で宿題にあつたような、課題図書を読ませて読書感想文を書かせるやり方では効果がないと思う。

学生D：真面目な意見ありがとう。私は正直に言うと読書感想文が大嫌いだった。あらすじを述べて、「感動しました」とみんな同じように書くだけ。これで読書嫌いになる子も多かった。それなのに今さらあなたの考えを述べよっていわれてもね。ちょっと③鼻白むかな。

学生A：そもそも、紙の本を読む意味なんてあるの？ 昔はなかつたから仕方がないんだろうけど、今ではスマホで検索すれば何でもすぐわかるし、

小説だつてタブレット端末でも読めるよ。

学生D：電子書籍ね。インターネットにも役にたつ面白い文章がいっぱいあるよ。それを読むことも読書なんじやないの。

学生B：そういうえば、授業でやらなかつた？ 紙の本を使う学生と、ネット情報だけを使う学生のレポートの比較を扱つた番組の話。

学生C：ああ、NHKの『クローズアップ現代』「広がる読書ゼロ—日本人に何が起こっているのか」（注3）つて番組の話ね。

学生D：よく覚えているね。でもこの番組の内容つて、読書ゼロよりもインターネットを使う学生のレポートの構成に問題があるつて話じゃないの。

学生B：ああ、コピペだらけのレポートの問題ね。あれは駄目でしょうけど、でも読書ゼロが何で問題なのかはあまりはつきりしていなかつたよね。

学生C：私はさつきも言つたように本を読むし読書のメリットもあると思うけど、好きじゃない人に対しても「読みましょう」という理由が結局入試

対策だというのは、本好きとしてはちょっと悲しい。まあ、④「馬を水辺に連れていくことはできても」、ということわざもあるから、無理強いしても効果はないと思うけど。

学生D：だいたい、私たちもう大学入試終わってるよ。私たちが読書する意義って何？この投稿はもともだと思つちやうけど、先生たちはそろは考えないよね。この違いをうまく説明しないと、レポートが書けないよ。ネット情報も読書のうち、って考えれば、かなり多くの高校生が読書していることになつて、ハッピーハンドじやないの？

学生A：読書の定義からして揺らいでいるものね。デジタル書籍も紙の本も内容は同じで媒体が違うだけなんじやない？ ただネット情報には信頼できないものが大分混ざつているからね、見分ける必要はあるわよね。むしろ、どんな情報に基づいてどう書くのかが問題なんだろうけど、そこは議論されないので。今度の入試改革で増えるという記述式問題も、別に本をたくさん読まなくて書けるレベルだと思う。

学生C：別の授業で聞いたけど、大学図書館や公共図書の利用者統計では貸出冊数も利用者数もそんなに減つているわけでもないって（注4）。

学生B：つまり読む人と読まない人が（4）二極化してることとかな。

学生A：うーん、好きな人はどんどん読んでくださいってことでいいと思うし、読書にもメリットがあることを否定するわけじゃないよ。でも、こんな議論ではレポートにまとまりそうにないね。もう少し⑤明瞭な結論が出せないのかな。

学生C：それをできるようにさせたいってことでしょう。問題はどうすればができるようになるのかがよくわからないんだけどね。

(A) 「読書しないとなぜいけないんですか」という問い合わせにきちんと向き合い、説得力のある答えを提示するのは難しい」とです。学生たちの議論は「なぜ読書が必要なのか」から、「紙の本でなくてもよい」、「ネット情報を猛スピードで検索し読むことだって立派な読書」、「入試対策で読書は必要か」などに論点が(5)拡散してしまっています。つまり、何が問題なのかを論じる過程で新たな問題が提示され、本来の問い合わせに答えないまま違

う問題を議論する、ということが繰り返されてしまい、議論が成立しなくなっているのです。これは特定の問題について論じるときに、よく起りますがちな失敗の例といえます。

ここで筆者の答えを述べておきます。読書は大切です。理由は、冒頭で述べた大学入試制度改革とともに伴う高等学校での教育改革のなかで求められる思考力・判断力・表現力を養ううえで、読書はとても有用だからです。読書の有用性は一点あります。第一は、読書からは多くの多様な情報が得られる点です。第二は、読書から情報の運用方法が学べる点です。

第一の情報量の点ですが、数時間で読める新書であっても、きちんとデータを調べ整理して文章として書くためには数か月、場合によつては数年かかることもあります。それだけの努力の結果を、読書によつて読み手は数時間で自分の知識に取り込めるのです。このメリットは非常に大きいものです。テレビのドキュメンタリーや報道番組から多くのことが学べますが、番組制作にはお金がかかるので、必ずしもあなたが関心を持つていることについての番組があるとは限りませんし、あつたとしてもすぐ視聴できるとは限りません。それに対して、図書館に行けば、実にさまざまな問題を論じた本が何千冊、何万冊と並んでいます。図書館の本棚の前で本のタイトルや目次を見るだけでも、多くの情報が得られます。

第二の情報運用の方法についてですが、これにはさらに二つのポイントがあります。一つはある課題や論点に対し、どんな証拠やどんなデータをどのように使つて論じているのかの事例を学べることです。こんなデータが省庁のホームページにあつたのか、こんな研究がこの分野について行われていたのか、ということもわかりますし、どんなふうに議論を組み立て展開し、証拠となる根拠資料やデータをどう使つているのかもわかります。一人で知恵を（オ）しほつても思いつかなかつたことが、本からは学べます。インターネット情報は同じような問題を論じていたとしても文字数が少なく、論点の構成や展開、根拠となる資料についての説明が抜けていることが多いのが問題です。もう一つは、多くの本を読むうちに情報処理の速度が上がることです。本を読むスピードがますます上がります。そして、さまざまな本のなかで異なる視点から論じられている共通の事項について考え、新しい視点を導くことが可能になります。

現代社会は人工知能に代表されるテクノロジーの発展により仕事内容も変化してきており、ある種の職業はやがて機械が処理するようになります。しかし、現在人々が協同して働く場から人間がまったくいなくなってしまうことはありません。初めて接する事態にも柔軟に対応する力、新たな発想を見出す力などは、AI（人工知能）よりも人間のほうが有利であるといわれています。また、AIには善悪の判断はできません。善悪とは相対性のある複雑な概念だからです。情報を読み解き、自分なりの判断を加えて分類し、ほかの情報と照らします。わせて必要なときにひっぱりだして言語化するといった能力は、今後ますます重要になります。大学入試改革はそれを見越して行われるものなのです。

注1 文部科学省「大学・短期大学等の入学者数及び進学率の推移」(www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gjiraku03090201/003/002.pdf 2017/12/01 参照)

注2 文部科学省「大学入学者選抜改革について」(www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/07/_icsFiles/affieldfile/2017/07/18/1388089_002_1.pdf 2017/12/01 参照)

注3 NHK『クローズアップ現代』「広がる読書ゼロ—日本人に何が起りつつあるか」 11〇一五年十一月十日放送

注4 日本国書館協会「日本の図書館統計」(www.jla.or.jp/library/statistics/tabid/94/Default.aspx 11〇一七年七月十日参照)

問一 傍線部（1）から（5）の読みをひがなで書きなさい。（配点各1点）

問一 傍線部（ア）から（オ）を漢字に直しなさい。送り仮名のあいものは送り仮名も書きなさい。（配点各1点）

問二 傍線部①单刀直入の意味に当たはまるものを次のなかから一つ選び、その記号を記しなさい。（配点1点）

A. 一人で議論し切り込むこと

B. 正直にすばりといふこと

C. 遠回しに話さずすぐに要点に入る」と

D. 人の話を聞かずに自分の意見だけ言う」と

問四

傍線部② 優柔不断の意味に当てはまるものを次の中から一つ選び、その記号を記しなさい。(配点二点)

A. 優しさを断ちがたいさま

B. ぐずぐずと決断を遅らせ、なかなか決められないさま

C. 誰にでも良い顔を向けること、八方美人のようなさま

D. 常に意見の中間をとり、自分の意見を明示しないさま

問五

傍線部③ 鼻白むの意味に当てはまるものを次の中から一つ選び、その記号を記しなさい。(配点二点)

A. 戸惑う

B. まじめに取り合わない

C. 激怒する

D. 興ざめする

問六

傍線部④ 「馬を水辺に連れていく」とは「できても」ということわざの続きを十四文字以内で書きなさい。(配点五点)

問七 傍線部⑤明瞭の反対語を次の中から一つ選び、その記号を記しなさい。(配点二点)

- A. 暗愚
- B. 曖昧
- C. 輪郭
- D. 黄昏

問八

読書の意義について、本文の作者の意見に最も近いものを次の中から一つ選び、その記号を記しなさい。(配点一一点)

- A. 読書は、インターネットによって得られる情報と同等の情報を与えてくれる。
- B. 読書は、作中人物の気持ちになつて考える力を身につけさせてくれる。
- C. 読書は、文化の多様性について多くの知見を与えてくれる。
- D. 読書は、情報の適切な使い方や論理的な表現の方法を学ばさせてくれる。

問九

傍線部(A)「読書しないとなぜいけないんですか」という問い合わせにきちんと向き合い、説得力のある答えを提示するのは難しいことです。

について、この直前の学生たちの議論と筆者の説明はどんなところが違っているか、一六〇字～一〇〇字でまとめなさい。(配点一五点)

問一〇 読書をめぐる著者の意見にあなたは賛成か、反対か、理由をつけて、あなたの意見を八〇字～一〇〇字で書きなさい。(配点一〇点)